

I

問1 しかし、ある「事実」を退けるとき、私たちはそれが「事実」と指定される資格そのものを奪ってしまう。つまり、それはそもそも全く事実ではなかったことになる。

問2 人間が作るものは人間が破壊することもできるが、自然が作るものについては誰も異議を唱えることはできない。ある知識の項目が作られる際に人間の媒介が果たす役割を特定することは、それが別のあり方でありえるという可能性を特定することだ。

問3 物理学の仮説は一時的で、修正しうるものであった。それらに同意することは数学の証明に対する場合とは違って義務ではなかった。したがって自然科学は、程度の差こそあれ、証明の領域から切り離されていた。

問4 数学的・論理的に完全に証明された確実性ではないが、経験や証拠にもとづいて実際上ほぼ疑いえない程度の確かさを持つという意味。

II

問1 ルソーが言うような「社会契約」以前に、人間社会の多くの価値観の伝達手段として言語は存在するという事。

問2 なぜある人は（ソファに寝そべってポテトチップを食べながらテレビを見る）カウチポテトのような方法で自分の生物学的傾向を満足させる一方、別の人はひよっとすると健康的ですらある違うやり方で欲求を満たすのだろうか。

問3 筆者は自分が生まれ育った文化によって育まれた細菌への恐怖をもっているということ。

問4 B (natural)

問5 (ア) quests : C (pursuits) (イ) sterilize : D (disinfect) (ウ) repugnant : C (disgusting)

III

問1 他人の著作を適切な形で認めずに利用したというパレの罪の重大さを測れるようにするためには、たとえば、彼がこのように横取りした文章の価値について何らかの見積もりをするのが適切だ。

問2 もしこうしてみれば、パレの頭脳の産物であるというあらゆる特徴を持つ文章である、これら三巻の膨大な書物の残りの部分の明らかに価値があると性質に比べて、それが取るに足らないものだという印象を持たずにはいられない。

問3 借用の中には、明らかにかなり愚鈍な人物の手になるとわかるものがいくつもあるという事実だけでも、決して頭が悪かったわけではないパレが、あれほど不器用にでっち上げられた盗用の罪を犯すこ

となどほとんどありえなかつたらうと主張する勇気を人に与える。

問 4 争点となる問題に関わる重要な事実の多くが筆者の手の届くところがないから。

問 5 [ア] : A (Accordingly) [イ] : A (Interspersed)

#### IV

- (1) Science is the expression of our inborn intellectual desire to ask what ultimately governs the world and to uncover its secrets; technology is the effort to alter natural things so that they better suit human purposes.
- (2) On the other hand, no technology can exist unless it is grounded in the laws that govern the world; and since science depends on observation and experiment, it cannot develop without techniques that make them more precise and more perfect.

大問 1 : 和歌山県立医科大学らしい科学史、科学哲学についての文章。金字塔的著作であるスティーヴン・シェイピン&サイモン・シャッフアー著『リヴァイアサンと空気ポンプ』あたりの議論を発展させている。下線 2 は先頭の構文が What men make を目的語とする倒置と気づけかたが分かれ目。agency 「媒介、作用」の意味もレベルが高い。下線 3 は provisional の意味が難しい。問 4 の moral の意味の説明は該当箇所の発見が容易。

大問 2 : 言語学者・人類学者のダニエル・エヴェレット著『ピダハン』のエピソードをベースに、文化と生物学的本能の関係を論じている。問 1 の is は「ある、存在する」の意味。前後にある部分を説明に使えるので難問ではない。下線 2 は「カウチポテトのように」という説明で十分だとは思いますが、念のためカウチポテトの意味も解答には加えた。問 3 の内容説明も平易。問 4、問 5 の空所補充も比較的平易。

大問 3 : 「近代外科の父」と呼ばれるアンブロワーズ・パレの著作についての学術的な調査を扱った文章。下線 1 の appropriate は「私物化する」という他動詞。受験生はここまで語彙が完成していないと思われるので、前後から推測して何か書いておけば十分。下線 2、下線 3 は受験レベルとしては平易。下線 4 の説明は内容が直前にあるので比較的平易。問 5 の選択問題も消去法が使えるので平易。

大問 4 : 例年通り阪大レベルの英作文。こなれた日本語を解釈して処理しなくてはならないところもほとんどないので、十分に対策している受験生には困ることはなかったと思える。

全体 : 昨年度出題された選択肢が 25 ある空所補充の問題が消えた。難問でほとんど差がつかないのではないか。昨年度と比較すると、全体は易化。しかし依然として素材文のレベルが高いのは変わらない。素材分のレベルだけで判断すると京大の 1.3 倍ほど難しい。